

## 市史講座第5回ミニレポート

11月12日(土) 第5回 古代出雲の須恵器生産と中海・宍道湖の水運—大井窯での集約生産の実態とその意味—(講師:島根県埋蔵文化財調査センター 丹羽野裕先生)が開かれました。



丹羽野先生は、まず、大井窯の立地状況、須恵器工人の墓と見られる横穴墓の分布状況、古墳・石棺式石室・子持壺の分布状況などについて説明されました。

それらから、6世紀末から8世紀前半には、入海を利用した原材料の供給および工人集団の出張によって大井窯で須恵器が集約生産され、その背景に出雲東部の首長による中海・宍道湖をつなぐ水道(大橋川)の支配があるのではないかと考えを示されました。

そして、「水運」という広域流通の把握が、松江が山陰の中心都市となる鍵ではないかと結論されました。